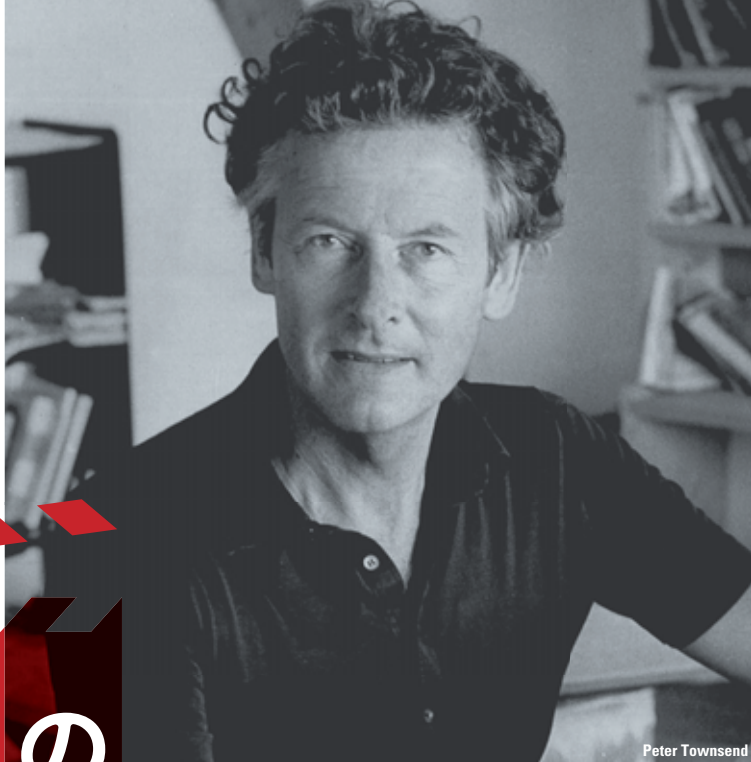


父と娘と、少年と。

長崎の郵便配達

The Postman from Nagasaki



Peter Townsend

Isabelle Townsend



Sumiteru Taniguchi



35年余り前、ピーター・タウンゼントは谷口スミテル被爆少年をモデルに1冊の本『ナガサキの郵便配達』を書く。これは、娘イザベル・タウンゼントがその取材地である長崎を旅し、父からのメッセージを紐解いていく映画である。



◎原作：ピーター・タウンゼント ◎脚本／監督：川瀬美香 [Art True Film] Original: Peter Townsend Screenplay/Director: Mika Kawase [Art True Film]

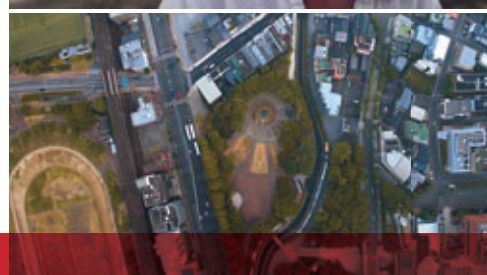
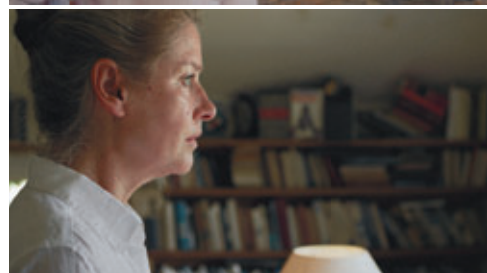
お問い合わせ先：映画「長崎の郵便配達」プロジェクト
Contact: "The Postman from Nagasaki" Film Project

東京事務所 Tokyo Office: Art True Film / mail: info@art-true.com
長崎事務所 Nagasaki Office: design hehe / mail: yamakayo@hehe2.jp

映画『長崎の郵便配達』 The Film “The Postman from Nagasaki”



2021年 全国公開予定

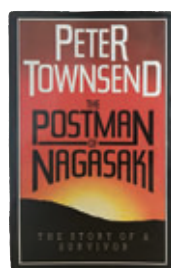


時代をこえて次の世代へ From Generation to Generation

元英国空軍大佐・Peter Townsendは、1982年に長崎取材して『ナガサキの郵便配達』という本を書いていました。人生の後半ともなる68歳時の作品です。この本は郵便配達中に原爆と遭遇した谷口稜嘩さんを主人公にした物語です。戦争体験後に作家になった彼は、この本を書く事によって当時何を残そうとしたのでしょうか。

2016年にこの本を追ってカメラは実娘のIsabelleを訪ねます。Peterが亡くなって22年が経っていました。Isabelleは父の書斎から当時の写真や資料を探し始め、父が再び自分の人生に現れたような気持ちを持ちます。そんな時、父の荷物から長崎の取材テープを発見するのです。Isabelleは2017年秋に谷口さんと会う事を計画しますが、彼はその夏に他界してしまいます。88歳でした。父も谷口さんも居なくなってしまいました。しかし2018年の夏、Isabelleは父のテープと共に長崎へ向かいました。

映画は物語を進めます。Isabelleは今の日常を生きています。彼女は自国へ帰国し日常生活に戻りました。長崎の旅で父からのメッセージに気づいたのです。彼女は女性として、母として、子どもたちの未来を見つめます。それは今を生きる私たちの姿です。



原本：英語版
“The Postman of Nagasaki”



映画製作支援〔寄付金〕のお願い

本作では撮影をすべて終了しました。その後の制作は、寄付金を募集して進めています。すでに全国の人々から応援をいただいておりますが、完成まで今しばらくお待ちくださいますようお願いいたします。引き続き、みなさまからのご協力をお待ちしています。

〔募金〕1口 3,000円（何口でもかまいません）

〔送金口座〕三井住友銀行 0009 恵比寿支店 656（普）8979262 ARTTRUE 合同会社 アートトゥルー（ド



最新情報は こちら <https://essay.tokyo/nagasaki/>

映画 長崎の郵便配達 検索

